

無痛分娩講習会

@芥川バースクリニック



本日の内容

- ・無痛分娩とは？
- ・硬膜外麻酔について
- ・当院での無痛分娩について

無痛分娩とは？

・お産の痛み(産痛、陣痛)って、どの程度痛いの？

表3 産痛の感想と想像

コメント	順位	総数 (人)
想像できないくらいの痛み	1	61
その他	2	57
生理痛の最も強いもの	3	55
言葉では言い表せない	4	49
生理痛の100倍以上	5	46
死ぬほど辛い、二度とはいや	6	42
失神するくらい強い、半端ではない	7	40
思ったより強いが、我慢できる	8	39
腰が砕ける、骨盤が軋む程	9	37
おなかが張り裂ける	10	13
鼻からリンゴ、スイカを出す程	10	13
強い便秘、腹痛のようなもの	10	13

total

465



AKUTAGAWA
birth clinic

無痛分娩とは？

- ・お産の痛みを和らげる様々な方法がある

理学的方法：呼吸法（ラマーズ法）、腰を押す、マッサージ
アロマ、鍼灸、水中分娩、催眠 etc…



→ 簡単に行える、合併症少ない
鎮痛効果が弱い、個人差大きい

無痛分娩とは？

・麻酔薬など、なにかしら医学的な方法でお産の痛みを和らげてあげる方法がいくつかある。

鎮痛剤の点滴、筋肉注射、吸入麻酔ガス、硬膜外麻酔

→ 総称して、無痛分娩

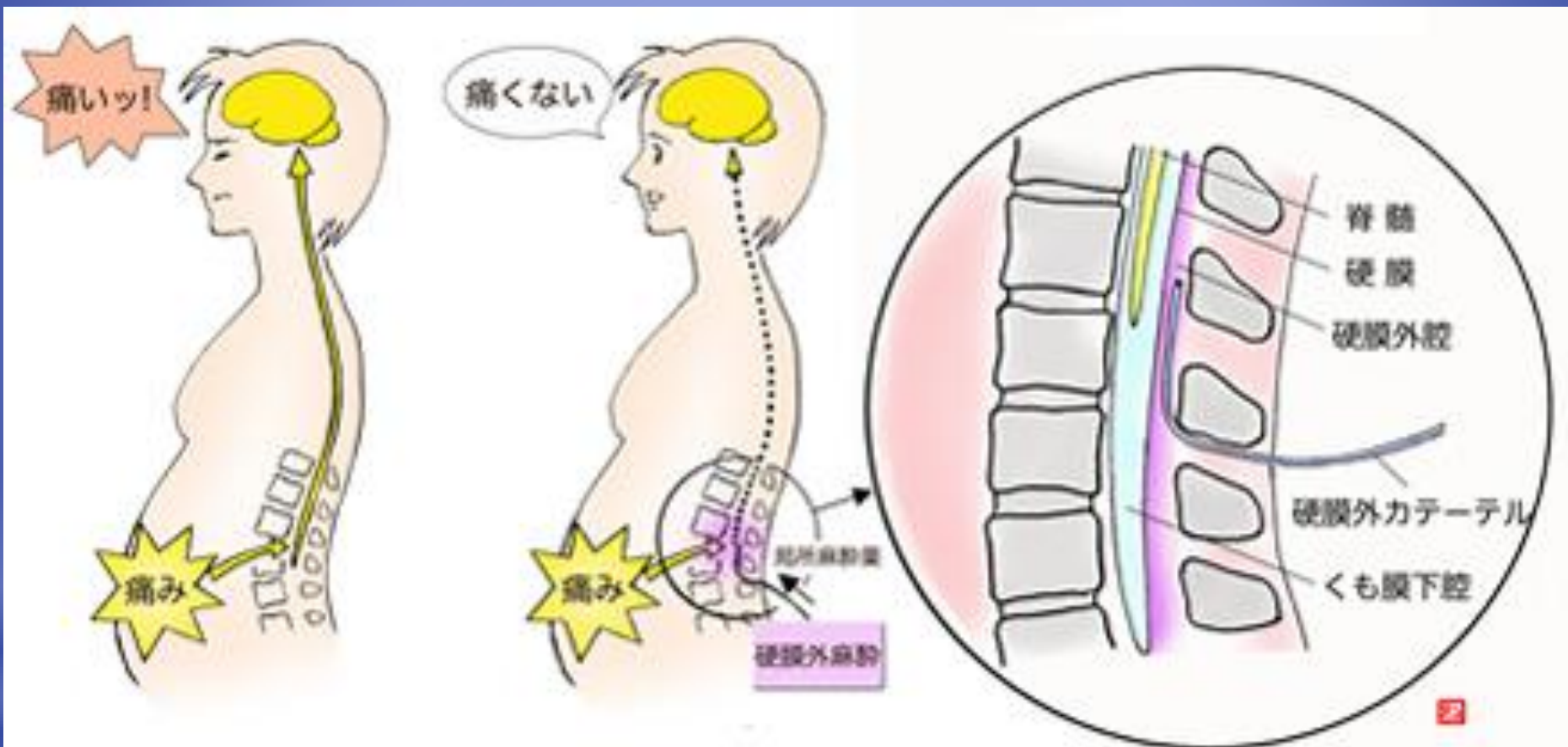
→ 鎮痛効果が確実、個人差少ない
特別な技術と知識が必要
麻酔による副作用・合併症の可能性

・硬膜外麻酔：鎮痛効果が一番高く
下半身麻酔（全身投与でない）
児への直接的な影響少ない
→ 世界的に標準的な方法

無痛分娩の歴史

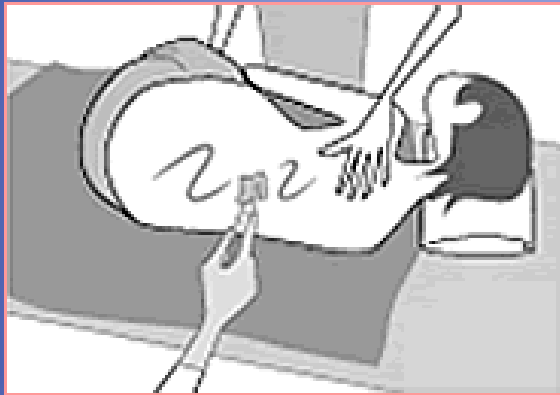
- ・1853年、イギリスのヴィクトリア女王がクロロホルム麻酔で出産したことをきっかけに英国の教会が無痛分娩を認知し、これをきっかけにヨーロッパで広まった。
- ・米国、1940年代には24時間体制で無痛分娩サービスが開始され、希望者に無痛分娩を提供するのは当たり前。
- ・欧米、無痛分娩の普及が高く、フランスでは8割近くが無痛分娩で出産している。
- ・ちなみに、日本では1916年に与謝野晶子が無痛分娩を受けた。
- ・日本では、現在6%前後が無痛分娩で出産。

硬膜外麻酔について



・無痛分娩のときに行う特別な麻酔ではない。何かの怪我や病気で手術する際によく行われる麻酔です。

硬膜外麻酔について



横向き
背中を丸める



カテーテルを入
れる



薬を適宜入れて
いく

・お産のときに**痛む範囲の脊髄神経にだけ麻酔を効かせる。**

硬膜外無痛分娩のメリット

- ・他の方法よりも**鎮痛効果が高い**
- ・麻酔薬による、**赤ちゃんへの直接的な影響はない**
- ・出産時の体力温存、分娩後の回復が早い
- ・血圧上昇や過換気を和らげる
- ・最後まで冷静に誕生を見れる、立会のパパに優しく
- ・緊急帝王切開時に**全身麻酔を避けことができる**

硬膜外麻酔について

硬膜外無痛分娩のデメリット

- 1) 分娩の進行に影響すること
- 2) 麻酔自体による副作用・合併症

硬膜外麻酔について

硬膜外無痛分娩のデメリット

1) 分娩の進行に影響すること

- ・分娩時間が長くなる(14分ほど)
 - ・陣痛促進剤が使う可能性が高くなる
 - ・吸引・鉗子分娩の可能性が高くなる
- ※帝王切開率は増加しないといわれている

※麻酔薬が、痛みの神経だけでなく、**運動神経にも少なからず効いてしまう！**

- いきむ力が弱く、いきむタイミングが合わなく
- 娩出力が少し弱くなる**

硬膜外麻酔について

硬膜外無痛分娩のデメリット

2) 麻酔自体による副作用・合併症

- ・軽度なもの

- かゆみ、吐気・嘔吐、低血圧、発熱、頭痛
 - 尿意を感じなくなる、下肢の痺れ・感覚が鈍い
 - 下肢が動かしづらく

硬膜外麻酔について

硬膜外無痛分娩のデメリット

2) 麻酔自体による副作用・合併症

- ・まれだが、重篤なもの
アナフィラキシー反応、神経障害
全脊髄クモ膜下麻酔、局所麻酔薬中毒
硬膜外血腫・膿瘍

→ (極めてまれだが・・・)
神経障害、意識消失、呼吸困難、心停止
など引き起こす可能性あり。

硬膜外麻酔について

硬膜外無痛分娩のデメリット

【予防、早期発見・早期対処】が大切

- ・お母さん、児のモニタリング
- ・定期的な麻酔効果判定
- ・慎重で安全な薬剤投与量・方法
- ・スタッフの知識や経験
- ・緊急時薬品・物品の準備

→ 当院では・・・

無痛分娩割合 30～35% (自然30%、計画70%) 事故 0件

日本麻酔科学会の推奨方法：**CADDポンプ**使用

LA Solution(無痛分娩コンサルティング会社)

当院での無痛分娩について

A) オンデマンド(自然陣発/破水)

or

B) 計画無痛



当院での無痛分娩について

A) オンデマンド(自然陣発/破水)

- ・陣痛が始まったら病院に連絡し、入院となる。
- ・その後徐々に陣痛が強くなり、**妊婦さんが麻酔(鎮痛)を希望したとき**に麻酔を行います。(子宮口が4~5cm)
- ・陣痛が弱くなるようであれば、陣痛促進薬を使用することもあります。
- ・お産の進行状況や痛みに応じて、麻酔も調整していき、最終的にお産に至ります。

※夜間や早朝であった場合、硬膜外麻酔を行えない、また行うまでに時間がかかることもあります。ご了承ください。

当院での無痛分娩について

B) 計画無痛

(経産婦)

AM8:30 入院、ミニメトロ挿入(前処置)
午前中 硬膜外カテーテル挿入(院長 or 麻酔科医)
PM1:00 陣痛促進剤の開始(点滴)
夕方 出産目標

(初産婦)

前日PM3:00 入院、ミニメトロ挿入(前処置)
夕方 硬膜外カテーテル挿入(院長 or 麻酔科医)
当日AM9:00 陣痛促進剤の開始する(点滴)
夕方 出産目標

Q.無痛分娩(硬膜外麻酔による産痛緩和)は、安全ですか？

→正しく行えば、お母さんにとっても、赤ちゃんにとっても安全で最も効果的な方法です。

Q.痛みはどれくらいになるのですか？

→あくまで、産痛緩和です。“痛みあるし、張りも分かるけど大丈夫”、“最後まで落ち着いて出産を迎えられる”、という状態です。

Q.費用はどのくらい？

→日本では保険適応がききません。別途費用掛かります。
当院：無痛分娩 5万円、計画無痛分娩 6万円

無痛分娩の最終目標

普通のお産
分娩に影響なし

痛み

不安

安全性がおろそかにされない
胎児新生児に影響なし

本日の内容



- ・無痛分娩とは？
 - 硬膜外麻酔による産痛緩和
- ・硬膜外麻酔について
 - 最も効果的、安全な方法
- ・当院での無痛分娩について
 - オンデマンド or 計画無痛

何かご質問はございますか？